

現状 1

13年度をピークに 徐々に減り続ける利用者

住民の新しい足として運行された村営バス。その後も地域住民の利便性や通学の足の確保にと、平成9年に鳥居線（普代駅〜鶴鳥神社間）と鳥茂渡線（普代駅〜落合・萩牛経由〜茂市間）の2路線が追加されました。現在の路線は、黒崎線（7便）、堀内線（3便）、鳥居線（2便）、鳥茂渡線（2便）の4路線となっています。

下表をご覧ください。村営バス運行開始の平成7年度から平成16年度までの利用状況を見ると、運行当初の平成7年度が1万4626人、8年度に少し減り、鳥居線と鳥茂渡線を追加した平成9、10年度は増えています。そして、平成13年度の1万8136人をピークに平成14年度には1万8029人、平成15年度には1万5355人で、前年度より3千人弱も減っています。その理由には、中高生の人数や利用の減少、観光客の減少などが考えられます。平成17年度も利用は伸

び悩み、9月末現在で4498人となっています。

まったく利用のない時間帯も

今年9月の利用者をみてみると、まったく利用されないという運行が624便中311便もありました。一回の利用者数も平成16年度は365日の運行した中で10人を超えた利用は8回しかありませんでした。

現在の一日の運行を見ると、

と、村営バスは黒崎線が7便、そのほかは一日で3便と2便しかありません。待ち時間などを考えると、最近では、自家用車が便利なことから、中高生の皆さんなどは、家での送り迎えなどで、村営バスの利用は極端に減りました。

定期券の販売もピーク時の平成7年度が152件だったのに対し、平成16年度は41件、平成17年度9月末はたったの12件となっています。

現在の主な利用は、村内への通院や買い物などで、交通手段がない方が利用しているのが現状です。1便の利用者が1人、2人しか乗ってないという場合も少なくありません。



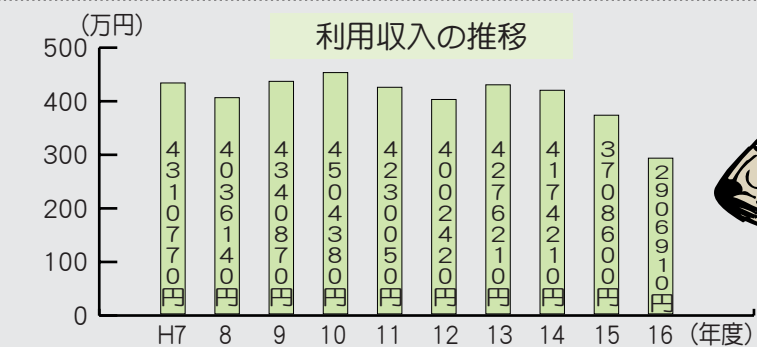
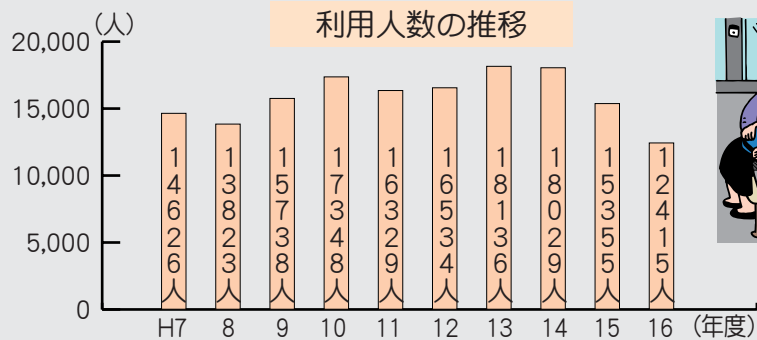
普代駅長
銭袋 金也さん(65)

ここ数年で
生徒や観光客の利用が
減りましたね

ここ数年、生徒の利用が少なくなりましたね。定期券の販売も少なく、回数券は9月ゼロです。時間のずれなどで、手っ取り早い自家用車を利用するのではないのでしょうか。観光客も減りました。団体はありますが、移動は観光バスです。それ以外の理由にはスクールバスや患者輸送バスとの関係も考えられます。

16年度は約880万円の赤字を抱える

平成16年度の村営バスの運営経費はバス2台分で、村営バス運行業務委託料に857万7千円、修繕費に1336万4千円、燃料費が130万円、そのほか車検代、タイヤ代、消耗品などに47万4千円など合わせて約1171万5千円。



それに対し年間の料金収入は290万6千円に留まり、880万9千円の赤字になっています。

また、バスの走行距離も60万キと30万キを超え、老朽化も進んでいます。特に黒崎線を走るバスは海からの潮風などで腐食が激しくなってきたり、修繕費などがかなりかかっています。